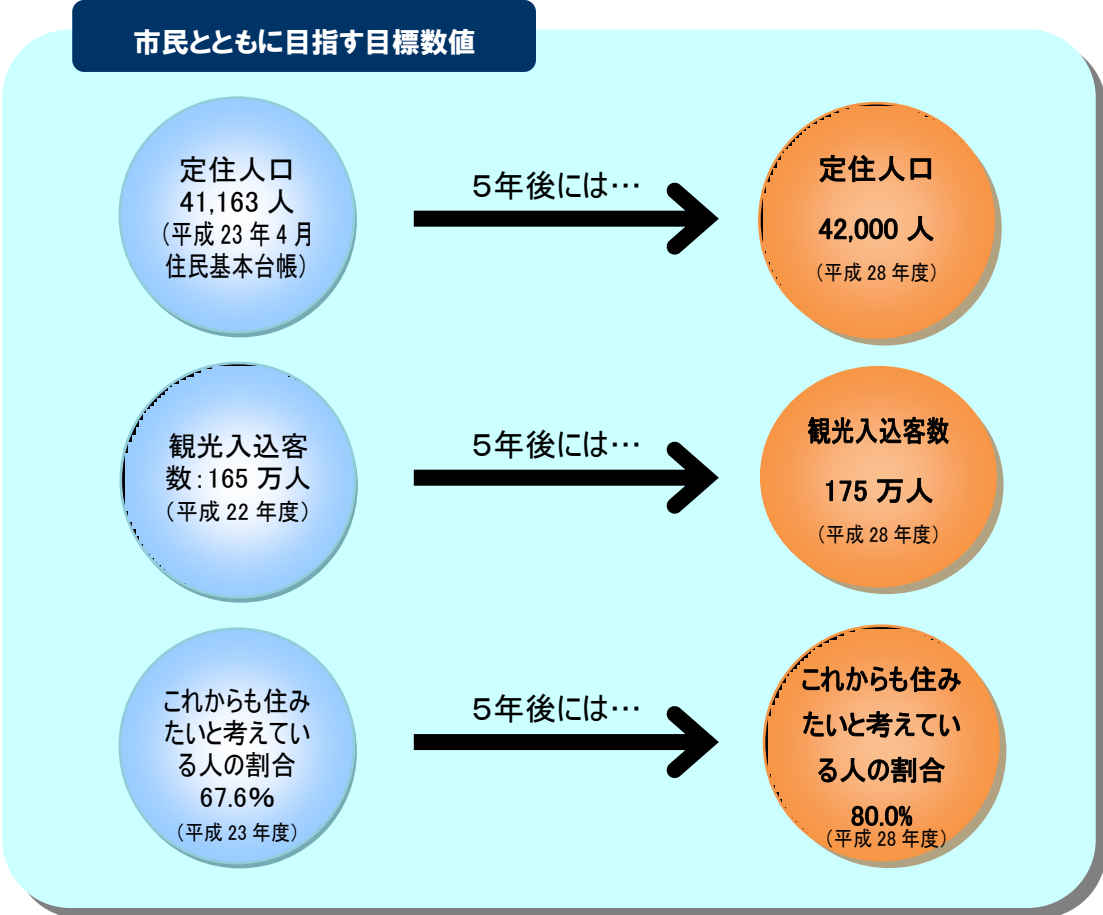


# 新まちの体力アップ戦略（案）

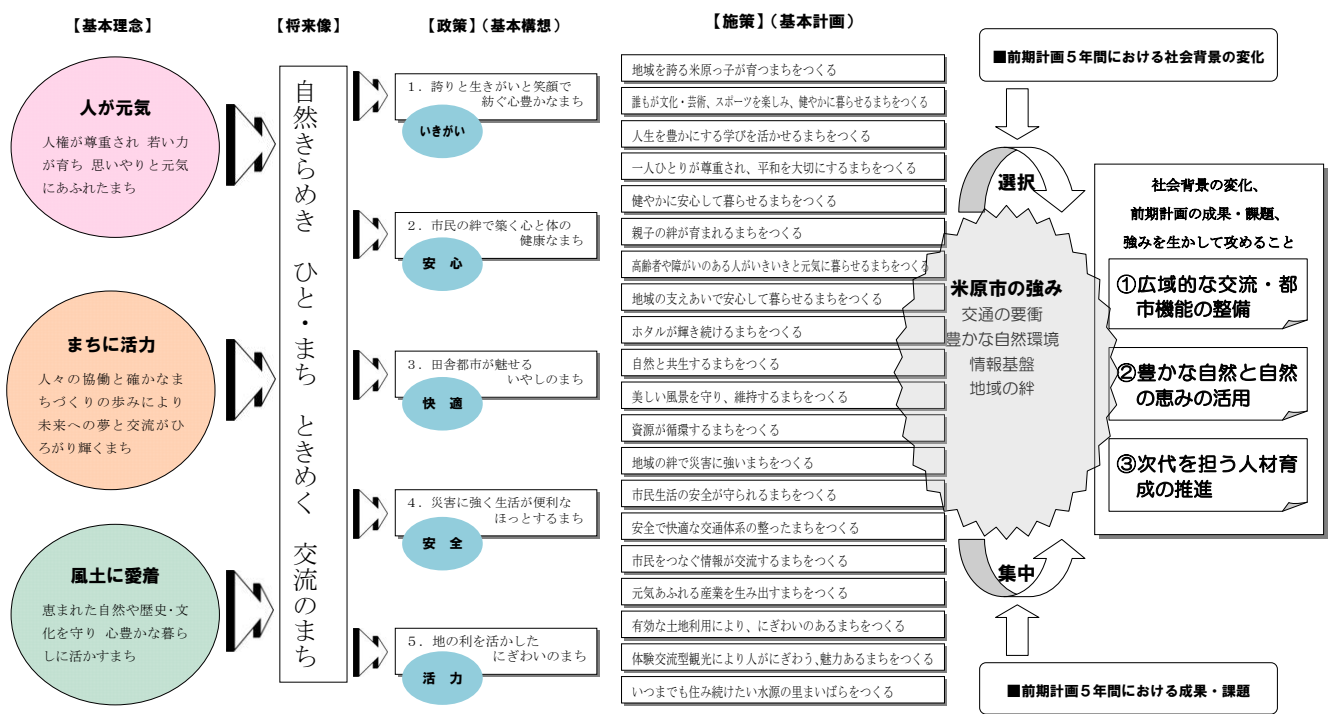
まちづくりの基本理念として掲げた「人が元気」、「まちに活力」、「風土に愛着」に基づき、将来像を実現するためには、市民・事業者・行政の役割分担と協働による取り組みを進めていくとともに、地方分権と都市間競争の観点に立って施策を戦略的に進めていく必要があります。そのためには、地域主権改革が進展する中、自律的判断と自己責任のもと限られた財源や人材の有効活用が求められる状況を理解したうえで、まず、まちの体力アップを重点的に展開し、市民生活サービスの向上につなげていく必要があります。

前期基本計画では、『「まち」ときめきプラン』『「自然」きらめきプラン』『「ひと」ときめきプラン』の3つのプランに取り組みました。この間、世界的な金融危機に端を発した経済不況や平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響など、計画期間中における社会背景は大きく変化するとともに、プランの取り組みによる成果・課題点も明らかとなりました。

そのため、基本構想における米原市の環境分析結果（米原の強み弱み分析）を踏まえつつ、社会背景の変化およびプランの成果・課題点をもとに戦略的に取り組む施策を取り上げ、後期基本計画において「新まちの体力アップ戦略」を設定し、取組を推進することとします。新まちの体力アップ戦略には、実効性・実現性を高めるため、分野横断的施策の数値目標を掲げました。



## 【新まちの体力アップ戦略の考え方】



## 【新まちの体力アップ戦略の概要】

- 戦略 1**  
**広域的な交流・都市機能の整備**
  - ・リーディングエリアのにぎわいづくり
  - ・市民の安全を守る防災、危機管理体制
- 戦略 2**  
**豊かな自然と自然の恵みの活用**
  - ・水源の里を中心とした定住促進、都市との交流
  - ・各拠点を結び観光資源の活用とネットワーク化
- 戦略 3**  
**次代を担う人材育成の推進**
  - ・多様な主体が活躍するコミュニティづくり
  - ・親と子、地域の絆を深める子育て支援、教育環境の充実

## 戦略1. 広域的な交流・都市機能の整備

### 【戦略1の内容】

米原市は地の利を生かした交通網によって京阪神、中京圏、北陸圏を結ぶ交通の要衝となっています。これは近隣市にはない米原市の強みです。この強みを最大限に活用し、さらに磨きをかけることで、人や産業が定着し、活力とにぎわいにあふれた交流・都市機能が発揮されるとともに、誰もが暮らしやすいまちづくりが可能となります。

これまでに、米原駅東西自由通路の開通、JR西日本の橋上駅舎の供用開始、米原駅の東西駅前広場の整備完了など米原市の玄関口である米原駅前の整備が進みました。今後は、まちの顔としてだけでなく滋賀県の玄関口としてふさわしい米原駅周辺のにぎわいを創出するため、商業施設、交流スペースなど来訪者が滞留して楽しめる空間の確保を進めるとともに、観光拠点としての利便性を高めます。また、米原駅東部土地区画整備事業の保留地の売却、企業、事業所などの誘致による働く場の確保を進め、通勤者でにぎわう活力ある米原駅周辺としていきます。

坂田駅周辺では、市民主体のまちづくり委員会が策定した地区計画に基づき、開発工事が進められています。今後も市民が主体となり、地域の持つ魅力や資源を活かすまちづくりを進めていきます。

さらに米原南工業団地では、鉄道と道路が結節し「もの」の集散に有利であるという強みを活かし、物流とものづくりの新たな拠点として効率的で環境に優しい新物流システムを実現するなど、新たな企業の立地を促す環境整備に引き続き取り組みます。

また、東日本大震災や豪雨被害により、市民の災害への意識が高まっており、全市民的なまちづくりにあたっては、災害リスクを考慮した土地利用・建築規制を一体的に行うなど、ソフト・ハードの施策を進める必要があります。災害時の被害を最小化する「減災」の考え方にに基づき、防災教育の徹底をはじめ、「絆マップ」の整備や災害時要援護者の把握に努め、それらを活用した防災訓練を行うなど人と人の結びつきを大切にするコミュニティの一体性を確保するため、「絆」を重視した安全・安心の取り組みを進めるものとします。

### 【分野横断的施策の概要】

分野横断的施策	施策の目的	5年後の達成イメージ	
		〔指標の設定〕	
		現状	5年後
リーディングエリアのにぎわいづくり	リーディングエリアである米原駅・坂田駅周辺において、交通の要衝である強みを活かし、商業施設や公共施設などの集積を進め、人や産業が定着し、活力とにぎわいを創出する。	広域的な交流機能の整備に対する満足度が高い	
		〔市民意識調査における満足度〕	
		5.1%	10%
市民の安全を守る防災、危機管理体制	災害リスクを考慮した土地利用・建築規制を一体的に行うなど、ソフト・ハードの施策を進める。	防災・防犯体制、安全な生活環境の整備に対する満足度が高い	
		〔市民意識調査における満足度〕	
		9.3%	15%

## 戦略2. 豊かな自然と自然の恵みの活用

### 【戦略2の内容】

伊吹山から琵琶湖まで豊かな自然や伝統文化を持つ米原市の資源価値をより一層高め、米原らしさをアピールするとともに、米原に魅力を感じ、米原を体感する人を増やしていくことが、地域の持続可能な活カづくりにつながります。

平成21年に「水源の里まいばら元気みらい条例」を制定し、推進計画に基づき、水源の里まいばらのイメージづくりやグリーン・ツーリズム、定住化の促進などを進めてきました。また、農業体験の受講者数や民家宿泊の体験者数は増加傾向にあります。このことから、米原市に訪れ農村生活を体感した人などを対象に、継続的に米原を応援してくれる「米原ファン」を増やしていく取り組みを進めます。特に、定期的に米原市を訪れ、四季折々の自然や農家の暮らしを楽しんだり、農作業などにいそんだり、まいばらの自然環境や住環境、風景を守る活動に参加、参画するなど、過疎化・高齢化の中での担い手として期待できる「米原ファン」の輪を広げ、定住促進とまちの活性化につなげます。

また観光振興計画では、「観光地域コミュニティ」づくりを最重点プロジェクトに位置付け、3つの地域で取り組みが芽生え、モデル地域ができつつあります。観光地域コミュニティの活性化のためには、各拠点を結ぶネットワークが求められます。こうしたネットワークの活用や、今後、街並みや文化的景観の保全が進められることを踏まえ、農業体験などのメニューを拡大し、市内の自然・歴史・文化・産業などを学べる体験・交流型メニューを開発し、子どもから大人までの「学ぶ」観光を進めます。一方、まなびサポーターやまちづくりリーダーなどの地域の人材が、市民の生きがいがづくりや生涯学習の場だけでなく、観光分野でも活躍できる場を広げます。

### 【分野横断的施策の概要】

分野横断的施策	施策の目的	5年後の達成イメージ	
		〔指標の設定〕	
		現状	5年後
水源の里まいばらの定住促進、都市との交流	米原を体感し魅力を感じ、応援してくれる「米原ファン」を増やし、定住促進とまちの活性化を図る。	米原を応援してくれる米原ファンが増え、その輪が広がっている	
		〔水源の里まいばらファン（体験学校の受講者数）〕	
		0人	延べ250人
各拠点を結ぶ観光資源の活用とネットワーク化	豊富な観光資源の有効活用と連携強化により、観光交流人口を拡大し、観光関連産業の活性化を図る。	もてなしのこころを持った市民が増えている	
		〔市民の観光客に対する受入れ意識〕	
		39.4%	70%

## 戦略3. 次代を担う人材育成の推進

### 【戦略3の内容】

東日本大震災の発生そして復興への道のりにおいて、「人々の絆や地域のつながり」の大切さが再認識されています。米原市の強みである人と人、地域の絆を最大限に発揮し、「共助」を軸にした新たな支えあい・助けあいの仕組みを構築することは、これからも住み続けたいと思う人の増加につながります。

これまで地域の特性を活かしたまちづくりを展開するため「地域創造会議」を設置し、より地域に密着した取組を支援する仕組みを構築しました。自主防災組織や絆マップの作成、観光地域コミュニティなど、地域を切り口とした活動は活発化しつつあります。今後は、地域の資源や特性を活かした取組を、自主的・計画的な事業として提案できる制度を構築し、公益的な取組として全市に広げていきます。また、その担い手として、地域創造会議をはじめとする多様な主体による新たなコミュニティづくりも視野に入れ、人材育成や支援を行っていきます。

また、子育て・子育て支援や青少年対策など、子どもに関する施策を一体的に推進する体制整備とともに、「まいばら親子の絆プロジェクト」を進め、子と親、または地域との結びつきを深める取組を進めてきました。今後さらに子育て・子育て支援や教育などに力を入れることで、安心して子育てができ、新規移住者が増加する「定住促進のサイクル」を形成することが可能となります。特に、地域の元気な高齢者の活力を活用した子育て支援の取組を進めます。このような事業展開の際には、ルッチ大学（院）で学んだまちづくりリーダーやまなびサポーターなどの人材を活用し、地縁や知縁が結びつく「地域の絆」によるまちづくりを展開します。

### 【分野横断的施策の概要】

分野横断的施策	施策の目的	5年後の達成イメージ	
		〔指標の設定〕	
		現状	5年後
多様な主体が活躍するコミュニティづくり	地域創造会議をはじめとする多様な主体による、地域の特性を活かしたまちづくりを進めていく。あわせて、市民提案による公益的な取組を全市に広め、その担い手となる人材育成や支援を行う。	市民と行政との協働のまちづくりの推進に満足している人が増えている	
		〔市民意識調査における満足度〕	
		6.5%	10%
親と子、地域の絆を深める子育て支援、教育環境の充実	子どもに関する施策を一体的に進めるとともに、親子の絆、地域の絆を深める取組を進めることにより、子育て・子育て支援や教育環境の充実に資する。	子育て・子育て支援が充実していると感じる人が増えている	
		〔市民意識調査における満足度〕	
		15.5%	20%